

1月27日（月）「学校給食週間について」

全校のみなさん、おはようございます。

さて、おにぎり2個、焼き魚、つけもの。

これは何の献立だと思いますか？これは日本で一番早く始まった給食の献立です。今から約130年前のことです。始まった場所は、山形県の小学校でした。

この頃、お昼ごはんを食べられない子どもたちがたくさんいました。学校に家からお弁当を持ってくることができない子どもたちが多くいたのです。そこで、学校の先生をしていたお坊さんが、おにぎり・焼き魚・つけものといったお昼ご飯を学校で出してくれたそうです。これが、「給食」の始まりです。

みなさんの食べている給食とは違いますが、初めて学校でみんなと一緒に食べた給食は、きっとおいしかったことでしょう。

毎年1月24日から1月30日まで「全国学校給食週間」となっています。

今から約80年前日本は、戦争が終わった後、食べ物がほとんど無い時代が続きました。おなかを空かした子ども達が日本中にたくさんいました。そんな時、日本の子どもたちを助けようと、世界中の国々から粉ミルクや缶詰などが送られてきました。それを、学校で子どもたちに配り、給食が再開されたのです。この時、日本の子どもたちを助けようと動いた国際団体が、みなさんが募金したユニセフです。日本もかつてはユニセフによって助けられていたのですね。

24日から始まった「全国学校給食週間」は、給食を通して食べ物の大切さとそれに関わる人の心の温かさを考える週間です。

先週の金曜日、1月25日が開港記念日なので給食にお赤飯やからあげが出ました。とてもおいしかったですね。これからも献立を考えてくださる栄養士さん、給食を作ってください調理員さんに心から感謝してたくさん食べてくださいね。

それではお話を終わります。（礼）